

質問
70代の母が口腔がん^{くわくがん}と診断され、医療用麻薬(オピオイド)を内服しています。ピリピリした痛みを担当医に伝えたところ薬が追加になりましたが、インターネットで調べると「抗うつ薬」「抗けいれん薬」と書かれていました。薬は間違っていますか。

口腔がん^{くわくがん}に抗うつ薬処方



川人 伸次
徳島大学歯科
麻酔科学分野教授

回答 がんの痛みは世界保健機関(WHO)の提唱する3段階の薬物療法に従って治療が行われます。第1段階は消炎鎮痛薬などの非オピオイド鎮痛薬、第2段階はコデインなどの弱オピオイド、第3段階はモルヒネなどの強オピオイドを処方します。

しかし、これらだけでは取り切れない痛みも多く、全ての段階で鎮痛補助薬と呼ばれる薬剤の追加を考慮します。鎮痛補助薬の代表は、抗うつ薬と抗けいれん薬で、主に神経の痛み(神経障害性疼痛)に有効です。

がんの痛みは一般的に、内臓痛、体性痛、神経障害性疼痛に分けられます。内臓痛は局在があまりない鈍い重い痛みで

鎮痛補助薬として有効



す。体性痛は局在のはっきりした明確な痛みで、突出痛としても認識されています。一方、神経障害性疼痛は、神経叢^{しんけいそう}などへの転移、脊椎への浸潤などによるもので、ピリピリと電気が走るような、あるいはしびれやジンジンする痛みです。

がん何でもクイズ

徳島県における2019年の胃がん検診受診率(40~69歳男女、全国平均49%)はどのくらいでしょう。

①50% ②45% ③40%

行こうよ!がん検診

神経障害性疼痛薬物療法ガイドラインで、第一選択薬として推奨されているのが、抗うつ薬と抗けいれん薬です。痛みの電気信号は末梢神経から



イラスト・森丘 幹也

脳に伝わり、痛みとして認識されます。脳神経の興奮を抑える薬は末梢神経の興奮も抑えます。

口腔がんは、神経への浸潤や圧迫に加え、放射線治療や抗がん剤による末梢神経障害により、ピリピリ、ジンジン、または三叉神経痛^{さんさしんけいどう}のような電撃痛を生じることがあり、しばしば神経障害性疼痛治療薬が併用されます。

神経障害性疼痛にも有効なオピオイドも開発されています。また不眠や不安により痛みは増強します。従って少量の睡眠薬や抗不安薬も痛みの軽減につながります。

がんの痛みには作用機序の異なる多様な薬物を組み合わせて行う、マルチモーダル(多様式)鎮痛法の有効性が示されています。また、理学療法、心理療法、神経ブロックなどが効果的な場合もあります。気軽に相談してください。

神経の痛み・興奮を抑制

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで)